

VI. トローリングの実際（ライトトローリング編）

いよいよフィッシングのスタートです。ここではフィッシングの基本を、写真を解説するスタイルで紹介します。

1. ルアーの投入から始まる フィッシングの基本

アウトリガーを利用しラインを4本流すトローリングの場合、通常ラインは外側アウトリガーから流します。その理由は、内側フラットラインを先に流して後からアウトリガーラインを流した時、アウトリガークリップにラインを通しアウトリガーの竿先まで上げる作業がスムーズにいけば問題ないのですが、その間にライン同士が絡み合ってしまう可能性が大きいからです。反対にルアーを回収する場合も、同じ理由で内側フラットラインを先に回収してからアウトリガーラインを回収します。このようにトローリングには、覚えておくべきいくつかのフィッシングの基本があります。それでは実際に基本に沿って、4本のロッドからルアーを流してフィッシングをスタートさせるまでを解説していきます。



いよいよルアーの投入です。スイベルフックにルアーを接合して、リーダーに絡みがないか確認。ルアーのスカートやフックを点検した後、最後にリールのドラッグがロックされていることを確認し、プロペラに吸い込まれないよう注意して投入します。



ルアーを投入したら、次はリールのスプールに軽く手を添えてドラッグレバーを緩めます。この時、クリック音は解除してください。ヒットの瞬間と同じ音がしてしまうからです。ルアーが流す位置まで到達したらドラッグの調整位置でレバーをロックします。



アウトリガークリップにリーダーからのラインを入れます。このとき、リールのドラッグ強度に対してクリップの強度は弱くないと外れません。通常、リールのドラッグ強度の30～40%でクリップを調整します。調整はリールのドラッグと同じバネ計りで行います。



クリップに入ったラインをハリヤードラインで竿先まで上げます。このとき、リールのドラッグはロックされていますので、ルアーラインはハリヤードラインの長さ分短くなりますが、アウトリガークリップがローラータイプなので、ルアーの出し入れが自由に行えるため問題ありません。



ハリヤードラインを竿先まで上げたらルアー位置を調整し、ドラッグの調整位置でレバーをロックします。そしてクリックをオンしておけば、魚が掛かれば音で知らせられます。



アウトリガーラインの投入が終了したら、次はフラットラインの投入です。アウトリガーラインのときと同じようにルアーを点検し、手順に沿って投入します。レバーをロックしクリックをオンにて終了ですが、最後にロッドセーフティラインが固定されているかを確認してください。船の揺れによるばかりでなく、ラインがロッドに絡んだりリールトラブルが起こったりして、あっという間にロッドが落水することがよくありますので、これは重要です。

●リールのドラッグとクリック

トローリングを行う上で最も重要なリールのドラッグは、瞬時に調整位置にロックすることができるレバードラッグが一般的ですが、ハンドル内側にあるレバーを回転させることでドラッグの強さを調整し、クラッチ操作でフリーにするスタードラッグ方式のリールを使うこともできます。右写真は2タイプのクリックON - OFF装置です。

PENNスペシャルセクターリールは全てスタードラッグです。



シマノ2スピードリールTLD20、30はレバードラッグです。



(上) ボタンタイプ・クリック
(下) レバータイプ・クリック

2. ファイティング&ランディング

「ギー、ギー」とリールのクリーク音が鳴り響き、左舷後方のロッド内側のフラットラインに魚がヒット。右舷内側ラインと左舷アウトリガーのラインを素早く巻き取って片付けしないと、ラインが絡み、魚とのやりとりがスムーズに行かなくなってしまいます。基本的にヒットしたリールのラインが止まるまで、邪魔になりそうなラインを片付けてからファイトしても船を前進させていれば余裕はあるはずです。また、ラインが緩むと魚がバレてしまうトローリング。操船者はヒットした魚がどこにいるかを確認し、次に、ラインが張った状態のタイトラインを保つように操船することが重要です。

●ファイティング

ヒットしたロッドをロッドホルダーに入れたまま魚とファイトしてもよいのですが、それではトローリングの醍醐味は半減してしまいます。ロッドをロッドホルダーから抜いてロッドのバットエンドをベルトハーネスに差し込み、ポンピングしてファイトすることで、魚とのやりとりを楽しむことができます。対象魚が大きくなれば、さらにマーリンハーネスをリールのハーネスリングにセットして、両手をはなしてもベルトハーネスとマーリンハーネスでロッドを支えられるようにします。そうすることによって左手を自由に使えるようにし、リー



ヒットしたラインが止まるまで大急ぎで他のラインを片付けます。このときルアーのフックは大変な危険物。

ルにラインを平行に巻いたり、サミングしたりしてファイトすることができます。揺れる船の上でアングラーが余裕をもつことが、ビックファイトをものにする重要な要素につながります。

●いよいよランディング！

しかし、このときには魚が必死であることを頭に入れておいて下さい。弱っている魚でもボートの近くに寄せられ船や人間を見たりすれば最後の力を振り絞って逃れようとしします。魚が小さければリーダーをつか



ラインを巻き取ってルアーを回収したロッド。この位置のロッドラックはベストポジションです。

み一気に引き上げてしまう方法もよいのですが、中型魚になってくるとそう簡単にいきません。操船者はリーダーマンがどの場所から魚を取り込もうとしているかを確認し、微速前進でフォローします。リーダーマンはグローブを装着して、魚の頭をできるだけ水面上に出させることを考えながら引き寄せ、フッキングの位置を確認します。フック（針）が魚の口の弱い部分に掛かっていたり、口切れしやすい魚ならば、レギュラーギャフで取り込みます。



ファイティングに必要なアイテム

●ショルダーハーネス

¥16,000（税抜）



●ベルトハーネス No.30175

¥9,600（税抜）



まさにトローリングの醍醐味をあげあわせてくれるアイテムです。体を保持してさらに体を守る役目もしてくれます。

魚のランディングに必要な道具類

レギュラーギャフは中型魚を捕まえる時に使用する道具で、ハリス強度に対して魚の重さがある場合や、釣針の掛かり所が悪くて抜けてしまったりしないよう、また、魚の口切れを防ぐために使います。また、船内に魚を取り込む際あばれると大変危険なため、中型魚などの場合はフィッシュバットで頭を叩いて完全に魚の動きを止めておく必要があります。

●レギュラーギャフ353H

¥16,800（税抜）



●フィッシュバット

¥5,200（税抜）



●フィッシンググローブ

¥4,800（税抜）



●レザーロンググローブ

¥3,500（税抜）

素手でリーダーや魚をつかむと大変危険です。ラインが細いため小さな魚と思い油断してつかみ、ラインが滑ってしまうと手が切れてしまいます。中大型魚になればそれ以上に油断できません。